

# くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会

〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435

公式サイト <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2020年

10月号

10月18日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

## 10月4日 聖霊降臨節第十九主日礼拝説教

「信仰があなたを救った」武井 恵一牧師

ルカによる福音書8章40～48節 新約聖書120頁

ルカによる福音書8章40～48節

<sup>40</sup>イエスが帰って来られると、群衆は喜んで迎えた。人々は皆、イエスを待っていたからである。<sup>41</sup>そこへ、ヤイロという人が来た。この人は会堂長であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して、自分の家に来てくださるようにと願った。<sup>42</sup>十二歳ぐらいの一人娘がいたが、死にかけていたのである。イエスがそこに行かれる途中、群衆が周りに押し寄せて来た。<sup>43</sup>ときに、十二年このかた出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたが、だれからも治してもらえない女がいた。<sup>44</sup>この女が近寄って来て、後ろからイエスの服の房に触れると、直ちに出血が止まった。<sup>45</sup>イエスは、「わたしに触れたのはだれか」と言われた。人々は皆、自分ではないと答えたので、ペトロが、「先生、群衆があなたを取り巻いて、押し合っているのです」と言った。<sup>46</sup>しかし、イエスは、「だれかがわたしに触れた。わたしから力が出て行ったのを感じたのだ」と言われた。<sup>47</sup>女は隠しきれないと知って、震えながら進み出てひれ伏し、触れた理由とたちまちいやされた次第とを皆の前で話した。<sup>48</sup>イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」

今日お話しする最初の言葉は「イエスが帰って来られると、」からです。主イエスは、ゲラサから、船に乗り、ガリラヤに帰ってきました。ゲラサで、主イエスは、悪霊に取りつかれた男から悪霊を追い出しました。この男が「お供したい」と願いましたが、主イエスは「自分の家に帰

りなさい。そして、神があなたになされたことをことごとく話して聞かせなさい。」と命じました。彼は、主イエスに命じられた通りに、救いに入れられたことを町中の人に話しました。

これは、ついでのエピソードのようですが、実は、主イエスの基本的ありかたを私たちに示されています。その男に、神のなされたことを「ことごとく話して聞かせなさい。」と、言われたことから、主イエスが、はっきりと、宣教を意識されていたことがわかります。そのように見ると主イエスは、次から次へと偶然の出来事のような流れの中で、宣教するにあたって、最善のあり方を選んでいたことが見えてきます。この宣教の流れが、主イエスの服に触れる女にもつながってゆきます。



今日の聖書箇所は、主イエスが、弟子たちと群衆のもとに戻られたところからとなります。聖書の区切りでは、「ヤイロの娘とイエスの服に触れる女」とされています。小見出しでは、40～56節ですが、今日の説教では48節までの「イエスの服に触れる女」を、お話しします。今日と来週の記事は新約聖書の中でも、とても美しい主の温かさと慈しみがあらわれている個所です。主イエスの思いやりが、何気なく、しかし、しっかりと私達に語られ、記されています。

「イエスの服に触れる女」の箇所は、主イエスを群衆が喜んで迎えていた時のこと、会堂長ヤイロがひれ伏して、「娘を救ってください」と懇願しました。そこで、主イエスが、その会堂長ヤイロのところに行く途中に起きた出来事です。主イエスは、会堂長ヤイロの娘が、死の間際にあることを知っていました。が、その一方、主イエスは、ご自分の服の房に触れてきた女性をも、かえりみられました。

群衆が主イエスの周りに押し寄せ中、群衆をかき分け、ぶつかり合い、這うようにして、やっと後ろから隠れるようにして、主イエスの服の房に、触った女がいました。彼女は十二年間、出血が止まらず、医者に全財産を使い果たしたのですが、治せる者は、だれもいませんでした。彼女は、「せめて、イエス様の服にでも、触れば癒される」と、すがる思いで、主イエスに、にじり寄ったことでしょう。「治して下さい。」と、心の中で、悲痛な叫び声をあげていたことでしょう。驚いたことに主イエスの服の房に触るや否や出血が止まりました。

その時、主イエスは、「わたしに触れたのはだれか」と言われました。だれもが、自分ではないといいます。主イエスの服の房に触れた女は、震えあがりました。彼女は、主イエスが、何もかも、お見通しになっておられ、隠れようがないことを知りました。彼女は下を向いたまま、もう頭をあげられません。主イエスの前にひれ伏しました。そして、自分の出血の病を治していただきたいと、必死に主イエスの服の房にふれ、たちまち癒されたことを皆の前で話しました。その時、主イエスは言われました。

#### ルカによる福音書8章48節

<sup>48</sup>イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」

彼女が、主イエスのこの言葉でどれほど心が支えられたか、言うまでもありません。主イエスの言われた言葉を、耳を広げて心いっぱい受け止めました。少しずつ喜びが心ににじみ出ます。長い間、彼女は病に苦しめられ、全財産を使ってまで病を治そうとしていましたが、そのかいなく暗い日々を過ごしていたのです。ところが、主イエスが癒して下さると聞き、必死ににじり寄りました。その時、主イエスは、待っていたかのように、彼女に声をかけたのです。我を忘れて主イエスに救いを求める思い、その求めに、主イエスは、「あなたの信仰があなたを救った。」と言われました。

主イエスの服の房に触れた女は、救いを、癒しを求めました。そして、そこには、救いを求め



る者を待っている主イエスがおられました。主イエスに、救いを求めることを、きっかけとして、信仰がはじまります。聖書は次のように語ります。

**エフェソの信徒への手紙2章8節**

**8**事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

信仰は、神様から、その独り子、主イエスキリストから与えられます。救いに招き、信仰を与えようと神様はいつも待っておられます。わたしたちの求めに、神様は、喜んで応えてくださいます。それは、また、「信じなさい」との神様の呼びかけに答えることです。主イエスの服に触れた女のように、癒しを、救いを求めるわたしたちに、主イエスご自身が「わたしを求めているのは、誰か」と言われ、信仰へと招き入れてくださいます。

そして、その女性の信仰は、出血が止まったという身体の癒しにとどまりませんでした。女性に驚くべきことが起こりました。彼女は、皆の前で、主イエスの服の房に触れた理由を話します。女性にとって、出血という女性特有の病を人々にあからさまにすることは、今までの彼女の人生にはありえなかったことでしょう。しかし、主イエスとの出会いは、癒しだけではなく、彼女の存在そのものを大きく変えたのでした。主イエスを証する者へと変えられたのです。それは今まで経験したことのない出来事でした。「安心して行きなさい。」という主イエスの言葉に送り出されて、彼女は、新しい人へと生まれ変わり、歩み始めたのです。

信仰は、神の恵みにより与えられるものですが、それを求めるのは、わたしたちです。神の恵みに応え祈り求めることによって、信仰は豊かなものとされます。服に触れた女性が、証する者へ変えられたように、「与えられた信仰」と、「自分自身の信仰」の熱い重なり合いが生まれ、魂の成長が実現します。わたしたちは、一人一人、皆、自己中心ですが、それにも拘わらず、主イエスに救いを求める時、主イエスは、応え、信仰を

与えて下さいます。これこそ神の恵みです。

神の恵みにより与えられたわたしたちの信仰は、神の恵みに応えることによって成長します。礼拝、祈り、賛美の言葉などで、わたしたちの心の中で信仰が生まれ、豊かにされ、高められてゆくのです。

信仰を成長させて下さることを感謝し、神様に、心からお祈りいたします。

祈り 讚美歌(21) 513番 「主は命を」

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。  
 聖書 新共同訳：  
 (c) 共同訳聖書実行委員会  
 Executive Committee of The Common Bible Translation  
 (c) 日本聖書協会  
 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

